

## 令和6年3月期 決算概要（連結）

### 1. 連結決算実績

（単位：億円（単位未満切捨て））

区分		R5年度 実績 A	R4年度 実績 B	増 減			
				A - B	(A - B)/B %		
営業収益	高速道路事業	10,314	9,373	941	10.0	表の右側の丸囲み番号について、2ページ以降に解説を記載しています。	
	料金収入	7,613	7,296	316	4.3		①
	道路資産完成高	2,659	2,050	609	29.7		②
	その他	42	27	15	55.7		
	関連事業	456	397	58	14.8		
	SA・PA事業	311	269	42	15.7		⑦
	その他の事業	144	127	16	12.9		
計	10,770	9,770	1,000	10.2			
営業費用	高速道路事業	10,268	9,402	866	9.2	④、③、⑤	
	道路資産賃借料	5,406	5,158	248	4.8		④
	道路資産完成原価	2,659	2,050	609	29.7		③
	管理費用	2,202	2,193	8	0.4		⑤
	関連事業	402	373	28	7.8		
	SA・PA事業	264	252	11	4.7		
	その他の事業	137	120	17	14.3		
計	10,670	9,775	895	9.2			
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	46	▲ 28	74	—	⑥	
	関連事業	53	24	29	122.9	⑨	
	(うちSA・PA事業)	47	17	30	177.5	⑧	
	計	99	▲ 4	104	—	⑩	
経常利益	132	16	116	725.3			
当期純利益 ※1	106	3	102	2,607.1	⑪		

※1 「当期純利益」には、「親会社株主に帰属する当期純利益」を記載しています。

（注）当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	
関連事業	SA・PA事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理
	その他の事業	受託事業、駐車場事業、トラクター・ミナル事業、コンサルティング事業等

※文中の丸囲み番号は、1 ページの表の右側に記載の番号と対応しています。

## 2. 連結決算実績の解説

### (1) 高速道路事業

- ① 管内の高速道路の通行台数は、対前期 2.8%増の 301 万台/日となり、料金収入は、対前期 316 億円 (4.3%) 増の 7,613 億円となりました。

〔 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和 2 年 3 月期と比較すると、通行台数及び料金収入は微増となっています。 〕

- ②③ 道路資産完成高は、E11 松山自動車道東温 (とうおん) スマート IC の完成や E9 京都縦貫自動車道の移管などがあり、対前期 609 億円増の 2,659 億円となりました。

なお、道路資産完成高は、道路建設にかかった経費と同額の債務を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構 (以下「高速道路機構」といいます。) に引き渡すため、道路資産完成原価と同額となり、営業利益に影響しません。

- ④ 高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期 248 億円増の 5,406 億円となりました。
- ⑤ 管理費用は、労務費や材料費の外注費が増加する中、雪氷対策費などの減少もあり、対前期 8 億円増の 2,202 億円にとどまりました。
- ⑥ 高速道路事業の営業利益は、対前期 74 億円増の 46 億円となりました。

区分		R5 年度実績	対前期増減
営業収益	料金収入	7,613 億円	+316 億円
	その他	42 億円	+15 億円
営業費用	道路資産賃借料	5,406 億円	+248 億円
	管理費用	2,202 億円	+8 億円
営業利益		46 億円	+74 億円

### (2) 関連事業

- ⑦ S A・P A の飲食物販店舗売上高は、対前期 130 億円 (15.3%) 増の 979 億円となり、S A・P A 事業の営業収益は、対前期 42 億円 (15.7%) 増の 311 億円となりました。

〔 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和 2 年 3 月期と比較すると、S A・P A の飲食物販店舗売上高は 16 億円 (1.7%) の増となっています。 〕

- ⑧⑨ S A・P A 事業の営業利益は、対前期 30 億円増の 47 億円、関連事業全体では対前期 29 億円増の 53 億円となりました。

### (3) 全事業

- ⑩ 全事業営業利益は、対前期 104 億円増の 99 億円となりました。
- ⑪ 当期純利益は、対前期 102 億円増の 106 億円となりました。

【参考1】 個別決算実績

(単位：億円 (単位未満切捨て))

区分		R5年度 実績 A	R4年度 実績 B	増 減	
				A - B	(A - B)/B %
営業収益	高速道路事業	10,285	9,357	928	9.9
	料金収入	7,615	7,298	317	4.3
	道路資産完成高	2,659	2,050	609	29.7
	その他	11	9	2	22.5
	関連事業	210	175	35	20.0
	SA・PA事業	108	98	10	10.3
	その他の事業	101	76	24	32.5
	計	10,496	9,532	963	10.1
営業費用	高速道路事業	10,258	9,396	861	9.2
	道路資産賃借料	5,406	5,158	248	4.8
	道路資産完成原価	2,659	2,050	609	29.7
	管理費用	2,192	2,188	3	0.2
	関連事業	194	166	27	16.8
	SA・PA事業	94	90	3	3.6
	その他の事業	100	75	24	32.8
	計	10,452	9,563	889	9.3
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	27	▲ 39	66	—
	関連事業	16	9	7	77.6
	(うちSA・PA事業)	14	7	6	87.8
	計	43	▲ 30	73	—
経常利益(損失▲)		86	▲ 9	95	—
当期純利益(損失▲)		72	▲ 10	83	—

【参考2】 令和7年3月期業績予想

(単位：億円)

区分		連 結			個 別
		R6年度 予想 A ※1	R5年度 実績 B ※2	増 減 A - B ※2	R6年度 予想 ※1
営業収益	高速道路事業	18,970	10,314	8,655	18,970
	料金収入	7,317	7,613	▲ 296	7,317
	道路資産完成高	11,654	2,659	8,994	11,654
	その他	0	42	▲ 42	0
	関連事業	554	456	98	293
	SA・PA事業	329	311	16	114
	その他の事業	226	144	81	180
	計	19,525	10,770	8,753	19,264
営業費用	高速道路事業	18,962	10,268	8,693	18,962
	道路資産賃借料	5,140	5,406	▲ 266	5,140
	道路資産完成原価	11,654	2,659	8,994	11,654
	管理費用	2,169	2,202	▲ 33	2,169
	関連事業	505	402	102	281
	SA・PA事業	286	264	21	104
	その他の事業	219	137	81	177
	計	19,467	10,670	8,796	19,243
営業利益	高速道路事業	8	46	▲ 37	8
	関連事業	49	53	▲ 4	13
	(うちSA・PA事業)	42	47	▲ 5	10
	計	57	99	▲ 42	21
経常利益	59	132	▲ 72	13	
当期純利益	50	106	▲ 55	9	

※1 億円未満は四捨五入で表示しています。

※2 億円未満は切捨てで表示しています。

(注) 令和6年度に予定の新名神高速道路(大津JCT~城陽IC)の完成に係るものは含んでいません。なお、上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。